

子宮頸がん検診を受診される皆様へ

五の橋産婦人科

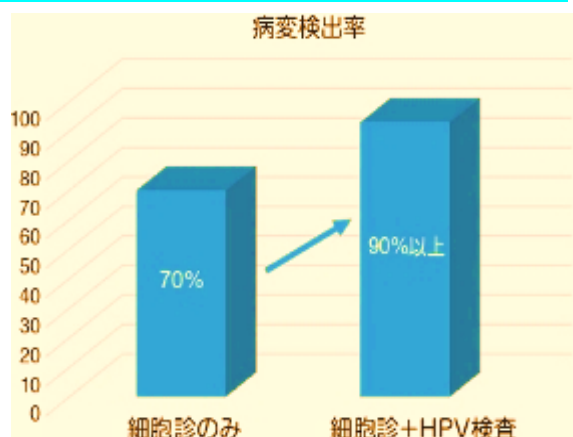
当院では子宮頸がん検診の際に、追加検査として経膣超音波検査・ハイリスクHPV (ヒトパピローウイルス) 検査を同時に行うことができます (子宮頸がん検診にかかる費用のほかに別途検査代が必要です)。

経膣超音波検査：別途 3,300 円 (消費税込)

- ・子宮体がん検診および卵巣がん検診は確立されていませんが、子宮体部腫瘍 (子宮筋腫、子宮腺筋症など)、子宮内膜腫瘍 (子宮内膜ポリープ、子宮内膜増殖症および子宮体がんなど) および良性・悪性の卵巣腫瘍などをチェックする手段です。
- ・肥満や腹部手術後の傷などによって、内診や経腹超音波検査ではわかりにくい子宮体部腫瘍および卵巣腫瘍の確認が可能です。症状が出にくいと言われている卵巣腫瘍も症状が出る前に確認できることがあります。
- ・子宮内膜の厚さや形状などをみることによって、子宮内膜増殖症や子宮体がんの疑いがあるかをチェックし、子宮内膜細胞診や子宮内膜組織診が必要かどうかも判定できます。
- ・この検査は直径 1.5cm の経膣探触子 (プローブ) を膣内に挿入する超音波検査です。性経験のない方でも経膣探触子を肛門から挿入する経直腸検査が可能です。痛みはほとんどありません。
- ・内診台に備え付けのテレビモニターの画像を見ながら説明します。

ハイリスクHPV (ヒトパピローウイルス) 検査：別途 5,500 円 (消費税込)

- ・ヒトパピローウイルスは、子宮頸がんの原因ウイルスで性行為によって感染するごくありふれたウイルスです。過去に一度でも性交の経験があれば誰もが感染する可能性があります。
- ・HPV に感染しても全員が子宮頸がんになるわけではありません。多くの方は免疫力によりウイルスは消えますが、一部は消えずに持続感染し数年後に子宮頸がんを発症することがあります。



- ・子宮頸部細胞診にハイリスクHPV (子宮頸がんに関連する 13 種類のタイプ) 検査を併用することによって、子宮頸がん発症の危険性を予測し見逃しを減らすことができます。
- ・子宮頸部細胞診と同時に行なわれるので身体に負担はかかりません。